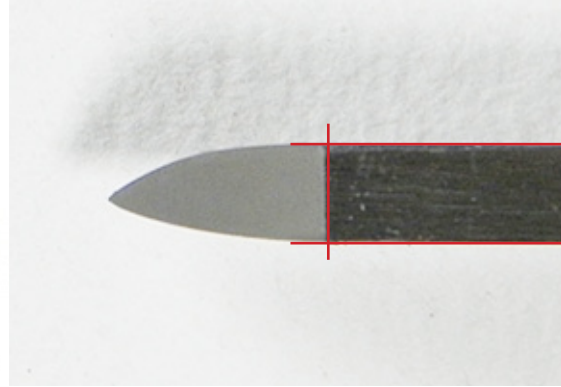




刃先角度 30° のエリプス刀



断面の刃と背の軸が直角に交わった状態

その他の形状のビュランについて

基本の研ぎができれば、大概のビュランは研げる。木口木版の場合は、数種類の形状の異なるビュランが必要になる。場合によっては自身の要求に応じて加工するのもよいだろう。その様に行えば、四角形のビュランのみで制作するよりも表現の幅が広がるはずである。



左から：
ハンドトリマー 2本
連発ビュラン
三角ビュラン

銅版画制作における連発ビュランの使用頻度は少ないと思うが、木口木版画制作には必要だろう。ここではNo.100の連発ビュランを研いだが、もう少し番手の低いものが良い。この連発ビュランは、ドリルストッパを用いることで確実に研ぐことができる。研ぎは円形のオイルストーンで研ぎ、次に耐水研磨ペーパー # 2000 番の間に # 1000 番を置き、仕上げにアーカンサス仕上げ砥石を使用した。これは、砥石から砥石へのつながりを持たせるために用いた。



この連発ビュランは同じ番手のものを用意して、先端の幅を狭くすることで彫る線の数を変えてもよいだろう。そうすることで表現の幅が広がるに違いない。

この連発ビュランは同じ番手のものを用意して、先端の幅を狭くすることで彫る線の数を変えてもよいだろう。そうすることで表現の幅が広がるに違いない。